



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第10回〕 歯や口腔の外傷について②

監修／歯学博士 鹿島 健司

前号に続いて外傷、特に今回は顎の骨の骨折についてお話させていただきます。歯の脱臼や破折の場合は速やかに歯科を受診するよう述べさせていただきましたが、顎の骨の骨折が疑われる場合、例えば口の開け閉めが困難になったり、顎を動かすと痛みがあったり、顎がずれた感じがする等の症状があるときは口腔外科（歯科口腔外科）のある病院を受診するようにしてください。



写真1 右下顎骨の骨折の口腔内写真



写真2 そのCT画像

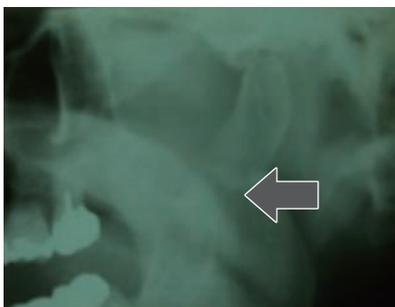


写真3 写真は左顎関節部の骨折

入院手術となりました。

その友人の写真はまだ手元がないので別の方の写真になりますが、写真4、5、6は22歳男性の下顎骨骨折症例です。下顎の骨体に2か所、右の顎関節にも骨折線が認められます。3か所の骨折部は金属プレ

ちょうど、この原稿を書いている際に、私の友人（53歳）が赴任先（北関東）で階段を踏み外して下顎を骨折してしまい、近くの救急病院に搬送されました。しかしその病院には口腔外科がなく、噛みあわせがよく分からなくて治療ができないということで1日で退院させられ、翌朝早く私が診ると右下顎の歯肉に裂傷があり、下顎骨骨体の完全骨折がみられ（写真1、2）、さらに、左右の顎関節にも骨折が認められました（写真3）。すぐに知り合いの病院（歯科口腔外科）を紹介受診し、

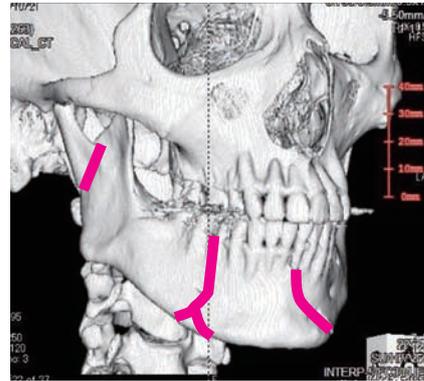


写真4 下顎骨骨折の3D - CT写真

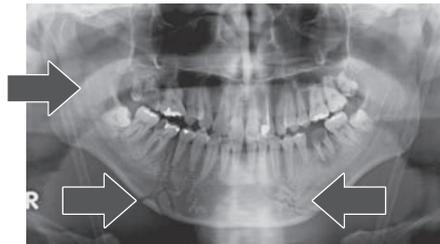


写真5 パノラマX線写真



写真6 金属プレートによって修復された術後のX線写真

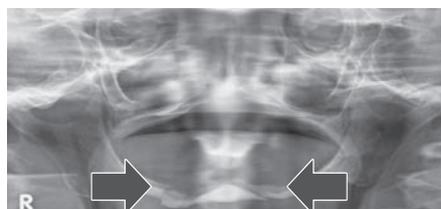


写真7 骨の異常吸収によって下顎の骨がたやすく骨折している



写真8 治療後のX線写真

ートによって接合されました（写真6）。

下顎の骨折は大部分が外傷性の骨折で、交通事故やスポーツ外傷、殴打（けんか）や転倒が原因となります。それ以外にも腫瘍・骨髄炎等の顎の病変や加齢によって、強固な骨が吸収されて骨折してしまうケースもあります。写真7、8は歯の喪失によって顎の骨が大きく吸収してしまったために、ごく軽い衝撃で骨折した症例です（67歳女性）。

下顎骨には各種の咀嚼筋が多数付着しているため、骨折によって上下左右の方向に骨が変位しやすくなります。そのため通常の整復・固定だけでなく、歯の噛み合わせ（咬合機能の回復）を考慮した治療が行われなければなりません。そのような観点から歯科口腔外科での治療が望ましいと言えます。

監修／鹿島健司（歯学博士）。1958年1月生。かしま歯科医院院長。川口歯科医師会学術部長 日本大学兼任講師